演習の目次

経済学科

天谷 …… 1 海野 …… 3 岡田 …… 5 沖 …… 7
加藤 …… 8 佐藤 …… 10 久松 …… 11 藤原 …… 13
星野 …… 15 宮崎 …… 17 持田 …… 19 横山 …… 21
ラナデ …… 23

経営システム学科

青木 …… 24 塩谷 …… 25 繁本 …… 27 向 …… 29
趙 …… 31 張 …… 32 朴(恩) …… 34 朴(鏡) …… 35
藤村 …… 36 古川 …… 38 松岡 …… 39 宮脇 …… 41
安井 …… 43 渡邉 …… 44

地域社会システム学科

金澤 …… 45 園部 …… 47 高橋(明) …… 49 高橋(昂) …… 51
西成 …… 53 水野 …… 55 山本 …… 56
| No. | 科目区分 | 必修 | 科目 | 時間割 | 前期末 | 対象年次及び学科
|-----|---------|-----|------|--------|--------|------------------|
| 1   | 水準・分野 | 5g | 業務 | DF・提供部局 | bcxE | 3〜経済学部
| 2   |  |  |  |  |  |  |  

| 担当教員名 | 関連授業科目 |  |  |  |  |  |  
|-------------|----------------|---|---|---|---|---|---|
| 青木 宏之   | 人力資源管理論A・B |  |  |  |  |  |  

| 講義時間 | 遙修推奨科目 |  |  |  |  |  |  
|-----------|----------------|---|---|---|---|---|---|
| 90分 × 30回 | 経営組織A・社会政策A |  |  |  |  |  |  

### 授業の概要
この授業は、人力資源管理論・経営管理論を研究する。主な内容は以下のようにあります。

- 人力資源管理論・経営管理論に関する文献の解説。
- グループワーク。
- 企業へのフィールドワーク。

### 授業の目的
この授業の目的は以下の通りを含みます。

- 人力資源管理論・経営管理論に関する文献の読解と、解説を通じて専門知識を深める。
- 自分の関心領域にかかわる資料を収集し、文献研究を行い、論文作成のための知識と技術を習得する。
- フィールドワークを通じて、現代企業の問題を社会科学的に理解する力習得する。

### 到達目標

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習・教育到達目標 (日本経済学会基準)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>この授業の到達目標は下記のとおりである。</td>
</tr>
<tr>
<td>人力資源管理論・経営管理論に関する専門知識を習得する。</td>
</tr>
<tr>
<td>とくにその中でも自分の関心領域を定め、それに関するより深い知識を習得する。</td>
</tr>
<tr>
<td>現代企業の実態を分析し、その結果をプレゼンテーションできるようになる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 成績評価の方法と基準
平常点（出席、発表、参加姿勢）50％、報告（レポート、卒業の中間報告）50％で評価する。

### 授業計画並びに授業及び学習の方法

#### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：第1学期の授業にかんする説明・課題設定
- 第2〜7回 人力資源管理に関する文献の読解
- 第8回 各人のテーマ設定
- 第9〜13回 各人のテーマに適合した論文の論評
- 第14〜15回 フィールドワーク

- 第16回 オリエンテーション：第2学期の授業にかんする説明・課題設定
- 第17〜21回 卒業論文テーマに関するプレゼンテーション
- 第22〜28回 文献読解または論文論評
- 第29〜30回 グループワーク：ディベートまたはプレゼンテーション

#### 【自学自習】

- 本講義の内容を学習する際、個人あるいはグループで事前・事後の準備を十分に入ること。
- 長期休暇中には課題を指定する。

#### 教材書・参考書等
- 受講生と相談の上、指定する。

#### オフィスアワー
- 木曜日11時〜13時
- 事前にメールで予約すること。

### 禮儀上のご注意・担当教員からのメッセージ

- 2020年度個別授業合同
- 演習の成績、卒業論文の計画内容を判断する。
- 2020年度個別授業合同の基準
- 平常点（出席、発表、参加姿勢）50％、報告（レポート、卒業の中間報告）50％で評価する。
- 2020年度卒業論文の評価基準
- 人力資源管理・経営管理論に関する意義ある研究課題を設定している。
- 先行研究を体系的に整理し、その意義と限界を明確にしている。
<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>必修科目</th>
<th>時間割</th>
<th>前期末5</th>
<th>対象年次及び学科</th>
<th>3〜経済学部</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>B4SN</td>
<td>DF・提供部局</td>
<td>cbeE</td>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>学位</td>
<td>営業</td>
<td>5g</td>
<td>営業</td>
<td>単位数</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>担当者名</th>
<th>塩谷 剛</th>
<th>開連授業科目</th>
<th>経営戦略論A/B、経営組織論A/B、</th>
<th>営業</th>
<th>営業データ分析</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>項目</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習時間</th>
<th>講義90分×30回＋自学自習</th>
</tr>
</thead>
</table>

【授業の概要】
本授業では、主に経営戦略論、イノベーション・マネジメントの領域における実証分析の方法論を指導する。企業組織に関する研究を通じて科学的、論理的な思考能力を養うことを目標とする。

【授業の内容】
以下のとおりである。
1. 競争戦略論、イノベーション・マネジメントの領域における理論文献を紹介し、クラス討議を重ねることで専門知識と問題意識を深めていく。
2. 経営論理の構築方法、実証分析の作法について学ぶ。
3. グループ研究を通じて、プレゼンテーション能力、論文作成能力を養成する。

【授業の目的】
本授業では、競争戦略論、イノベーション・マネジメントの領域における主要理論と研究の実行・論文執筆に必要なスキルを習得することを目指す。

【到達目標】
<table>
<thead>
<tr>
<th>到達項目</th>
<th>学習・教育到達目標</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 競争戦略論、イノベーション・マネジメントにおける主要理論の説明ができる。</td>
<td>(工学部)ABEE基準</td>
</tr>
<tr>
<td>2. 上記の理論を用いて現在の経営現象を説明できる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. 教員よりアドバイスを受けながらも調査研究を実行できる。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

【成績評価の方法と基準】

・平常点（小作業、宿題等の提出）30%

・担当教員の報告30%：
報告に関する資料、プレゼンテーションの内容、プレゼンテーションに対するコメントの内容で評価する。
報告用資料はMicrosoft WordまたはPowerPointを使用すること。プレゼン中、板書してもよい。担当者は報告時に、クラス全員分の資料を配布すること。

・グループ研究40%：
準備のプロセス、プレゼンテーション、調査研究報告書の内容で評価する。

【授業計画並びに授業及び学習の方法】

【授業計画】

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>前期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1回</td>
<td>イントロダクション</td>
</tr>
<tr>
<td>第2回〜15回</td>
<td>経営論理の学習 (論読・ディスカッション)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【授業計画】

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>後期</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第16回〜18回</td>
<td>経営理論の学習 (論読・ディスカッション)</td>
</tr>
<tr>
<td>第19回</td>
<td>経営理論の組み立て (論読・ディスカッション)</td>
</tr>
<tr>
<td>第20回</td>
<td>経営学の実証分析 (論読・ディスカッション)</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第21回～第23回：計量経済学のエッセンス（論読・データ分析演習）
第24回：質問調査票の作成
第25回：実証論文の書き方
第26回～第29回：グループ研究
第30回：グループ研究発表会

教科書・参考書等
開講時に文献リストを配布する。なお、何れの文献もPDF等で配布する。

オフィスアワー　　特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
【2020年度個別演習選考基準】
- 本演習の受講者は演習の取り組み状況と研究計画書により選考する。
- 新規参加希望者は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。
- 本演習の受講生も含めて、来年度の個別演習希望者は「計量経済学Ⅰ」「経営統計学」
「調査データ分析」のうち少なくとも1科目を受講していることを必須とする。

【2020年度個別演習単位認定方法】
- 卒業研究および個別演習の活動状況により単位認定する。

【2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】
下記の要件を満たしている場合には卒業論文としての提出を許可し、その内容に応じて評価する。
- 企業経営に関する研究テーマが選択されていること
- 研究論文作成の様式に従っていること
- 先行研究を整理し、学術的・実践的意義を有するもの
- 執筆者が作成したデータセットを用いた統計的実証分析を行っていること
- データのタイプは、アーカイバブルデータ、アンケートデータどちらでもかまわない
- 分量の目安は20,000字以上
<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>授業科目名</td>
<td>セミナー（板木）</td>
</tr>
<tr>
<td>科目区分</td>
<td>必修科目</td>
</tr>
<tr>
<td>時間割</td>
<td>前期5</td>
</tr>
<tr>
<td>対象年次及び学科</td>
<td>３～経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>B4BNS</td>
</tr>
<tr>
<td>DP・提供部署</td>
<td>cbaE</td>
</tr>
<tr>
<td>對象学生・特定プログラムとの対応</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>8x</td>
</tr>
<tr>
<td>単位数</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>講義時間</td>
<td>講義90分 × 30回 + 自学自習</td>
</tr>
<tr>
<td>学習内容</td>
<td>なお、授業中のディスカッションに参加するためには、レポーターに上がっていただくため十分な予習が必要であることに注意してください。また、授業内で学ぶことを求めるほか、短期休暇中に課題を課すため、ゼミ活動に参加する時間を割ることが必要です。</td>
</tr>
<tr>
<td>授業の概要</td>
<td>本授業では、財務会計の基礎理論と、習得した知識の活用能力の養成を目指します。まず前期は、財務会計の概要（テキスト）の読み込みを通じて、財務会計の基礎理論を徹底的に学びます。続けて後期は、前期で習得した知識を活用しつつ、有価証券報酬書その他の企業情報を用いて、財務分析の評価などを実践的に学びます。</td>
</tr>
<tr>
<td>授業の目的</td>
<td>財務会計の基礎理論をしっかりと理解した上で（DPの「知識・理解」、習得した知識を課題発見・解決に応用する能力を身に付けるとともに（DPの「問題解決・課題解決能力」）、自分自身を高めるために他人に伝える力を養うことが（DPの「コミュニケーション能力」）、本授業の目的です。加えて、ゼミ活動への積極的な参加を通じて、社会人になるための訓練を行います。</td>
</tr>
<tr>
<td>達成目標</td>
<td>学習・教育到達目標（工学部IBEE基準）</td>
</tr>
<tr>
<td>1. 選考基準</td>
<td>面接によって選考します。面接時には志望理由書（様式は自由。分量はA4半分程度）と最新の成績表を持参してください。</td>
</tr>
<tr>
<td>選考に当たっては次の点を重視します。</td>
<td>本ゼミを志望する理由</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2年次までの履修科目と成績（特に会計科目※）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>学生生活におけるゼミ活動の優先度</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>積極性、主体性、協調性</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>※会計学は結構高い位置であり、本ゼミでは2年次までの学習内容を一段と発展させた水準を扱います。したがって、授業内容を理解するためには2年次に会計学総論を履修済み、あるいは日商簿記2級（少なくとも3級。ただし要努力）程度の知識が必要です。テキストの候補を後述していますので、図書館などで予めレベルを確認すると良いでしょう。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>なお、選考基準とは直接関係しませんが、以下のようないくつかの人物は本ゼミに向いているでしょう。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>会計専門職（公認会計士、税理士、国税専門官など）を志望している人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>金融機関、企業の財務・経理部門、証券アナリストを志望している人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>会計の学習が楽しいと思う人</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>会計やファイナンス、金融をテーマとする卒業論文を書きたい人</td>
</tr>
</tbody>
</table>
また、本ゼミは「護送船団型」ではなく、向上心ある学生の能力を伸ばす「ブールアップ型」を目指していますので、やる気満ちた学生の参加を期待しています。逆に、会計に興味が持たない人、会計以外の試験勉強に時間を割きたくない人、課外活動を優先したい人、演習の単位を「効率的に」取りたい人などは、本ゼミを選択するとミスマッチが起こりかねませんので、注意してください。

２．授業計画並びに授業及び学習の方法
（１）授業計画及び授業の方法
【前期】
・前期初、テキストの輪読を通じて、財務会計の基礎理論をしっかりと習得します。
・演習の進め方としては、レポート発表を含め全員による報告の後、ゼミ生全員でディスカッションを行います。4年生もディスカッションに参加し、コメントやアドバイスを行う予定です。ゼミではディスカッションへの参加が非常に重要であり、ゼミ内で発言しないことは、ペーパーテストでさえ白紙なおせどと同様です。
・4年次の卒業論文執筆に向けて意識を高めるため、夏休みには、そこそこの長さのレポートの課す予定です。

【後期】
・後期は、有価証券報告書その他の企業情報を使って財務分析を行い、前期に習得した基礎知識の活用に取り組みます。このため、自ら手で動かして分析する場面が多くなります。グループ学習も想定しています。
・後期も前期同様、習得すべき理論や概念は数多くあります。残念ながら「覚えることが少ない」「難しくない」とはならない点に注意して下さい。

【その他】
・テキストはゼミ生の顧問が決めてから決定します。前期は今シーズン、桜井久雄『財務合計基礎』（中央経済社）の他、原田亘『財務会計学』（中央経済社）を参考にしています。後期のテキストは改めて指示します。
・ほぼ毎回、20〜30分程度の授業時間延長があります。延長授業に合理的な理由がない限り早退は認めませんので、その旨を承知の上でゼミに参加することを求めます。
・なお、懇親会やゼミ合宿その他のイベントについては、ゼミ生の意思を尊重しますので、ゼミ生が自主的に企画・運営を行ってください。

（２）学習の方法
・財務会計の書籍には、財務会計全般を扱った概説書のほか、特定のテーマ（例えば金融商品会計、税効果会計など）に焦点を絞った専門書があります。特にレポート発表は、テキストだけでなく、他の概説書や専門書も参考にしつつ報告準備を行うことが望まれます。
・加えて、日頃から新聞や経済雑誌に目を通すなどして、会計事象の背後にある経済取引や企業ビジネスの実態に導き強い関心と問題意識を持つことが、会計学を理解するためには極めて重要です。

教科書・参考書等
【テキスト】
ゼミ開始時に指示します。前期、前期ともに各1冊テキストを用いる予定。
【参考書】
・中央経済社編『会計法規集』中央経済社
・日本公認会計士協会・企業会計審査会全編『会計監査法』改訂版日本公認会計士協会出版局
（参考書の購入は必須ではありませんが、購入する場合は若者に新刊版を推薦します）
その他は随時紹介します。

オフィスアワー
初回授業時に指示します。ただし指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
授業形式的授業では、毎回の出席は当然の前提とした上で、ゼミ生の積極的かつ能動的な学習姿勢が不可欠です。
授業のレポートはゼミ生全員の学習姿勢を決めるに過ぎませんが、各ゼミ生には十分な事前準備と積極的なディスカッション参加が求められます。また、講義中滞在える教授の目的外使用をはじめ、他の教員の教室を害する行為は厳に慎むこと。そうした行為を厳正に対処します。

１．2020年度個別演習選考基準
演習の取組状況をもとに選考します。

２．2020年度個別演習の単位認定方法
卒業研究の進捗と質、ならびに授業における報告の質やディスカッションへの参加状況によって成績を評価します。

３．2020年度卒業研究の作成要領と単位認定方針
詳細は個別演習において説明しますが、会計やファイナンス、金融に関するテーマであって、卒業論文としてふさわしいものを選べ、字数は20,000字以上であることが必要です。具体的には、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけではない独立的で課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められます。これらの達成度をもとに単位認定を判断します。
ナバンリングコード：B4SN-cbdE-20-Eg4
授業科目名：国際経営ゼミナール

<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>必修科目</th>
<th>時間割</th>
<th>対象年次及び学科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>京都大学</td>
<td>前期5</td>
<td>3〜経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td>内容</td>
<td>B4SN</td>
<td>DF・提供部局</td>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>単位数</td>
<td>5g</td>
<td>20</td>
</tr>
</tbody>
</table>

担当教員名：向塚

関連授業科目：
国際経営論、経営学概論、経営戦略論、
経営組織論、人的資源管理論、
マーケティング論、調査データ分析

履修推奨科目：
国際経営論、経営学概論、経営戦略論、
経営組織論、人的資源管理論、
マーケティング論、調査データ分析

学習時間：講義90分×3回＋自学自習、グループワーク

授業の概要
本演習では、企業が国境を超えてまた国境を経て生産・販売などの活動を行う場合、どのような問題が発生するのか？多国籍企業がいかに多種多様な活動を効果的にマネジメントすることができるのか？新興国市場と企業の動向が国際ビジネスに対してどんな影響を与えているのか？といった問いを自らの興味・関心に基づいて立て、それらについて論理的・実証的な研究を行う。

日常の演習活動で加えて、合宿や企業訪問、他大学との合同ゼミなども適宜開催する。

授業の目的
文献講読やグループ研究を通じて、卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身に付ける。

到達目標
国際経営に関するレジュメを書くことができる。
国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持つ、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文書を書くことができる。
国際経営に関するプレゼンテーションと討論によって、自らの主張を他者に明確に伝えることができる。

成績評価の方法と基準
平常点と小論文の内容に基づいて評価する。
平常点は主に出席状況、授業中の発表と議論、演習での活動全般へのコミットメント、およびグループ研究への貢献度を評価の基準とする。
なお、評価比率は平常点60％、小論文40％とする。

授業計画並びに授業及び学習の方法

選考基準
面接によって選考する。選考の基準は主に以下の3つである。
①国際経営に対する関心・興味を持っている人
②演習での活動全般に対して積極的に取り組む人
③協調性と柔軟性を有し、他人と円滑な共同作業ができる人

授業計画並びに授業及び学習の方法
前期では、テキストや研究論文を観察し、国際ビジネス研究に必要な専門知識を習得する。演習生が頻繁に指定文献についてレジュメを作成報告し、全員でディスカッションを行う。報告担当者以外も文献を精読して、その概要を織み（A4用紙1枚程度）、意見をもって議論に参加する。
後期では、まず講義を3回設けて、教員は研究方法論、小論文の書き方および論理的思考法についてレクチャーを行う。その後、演習生はグループ研究に取り組む。研究の進捗状況と成果について中間発表してもらい、各チームに対して教員が研究指導と論文評価を行う。1月中旬をめどに、各チームは最終成果物として、15,000字以上の小論文を提出する。

教科書・参考書等
授業ごとに資料を配布する。
参考書については、適宜紹介する。

オフィスアワー　事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・2020年度個別演習選考基準
  ①3年生の演習から継続する場合は、特に選抜を行わない。
  ②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。

・2020年度個別演習単位認定方法
  卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。

・2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
  卒業論文は以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面自さに応じて評価を行う。
  ①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究
  ②先行研究を踏まえた上で書かれていること
  ③書式にのっとって書かれていること（書式については別途指示する）
  ④論理性と独創性を持っていること
  ⑤文字数は20,000字以上
<table>
<thead>
<tr>
<th>ポリシーに変更点がなければその欄を空欄で指定してください。</th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ナンバリングコード</td>
<td>B4BSN-c6eB-20-Bx4</td>
</tr>
<tr>
<td>授業科目名</td>
<td>(時間割コード：323761) 演習（組） Seminar</td>
</tr>
<tr>
<td>科目区分</td>
<td>必修科目</td>
</tr>
<tr>
<td>時間割</td>
<td>前期木5</td>
</tr>
<tr>
<td>対象年次及び学科</td>
<td>3〜経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td>水準</td>
<td>分野</td>
</tr>
<tr>
<td>B4BSN</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>DP・提供部局</td>
<td>c6eB</td>
</tr>
<tr>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>8x</td>
</tr>
<tr>
<td>単位数</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>担当教員名</td>
<td>趙 命来</td>
</tr>
<tr>
<td>連係教授科目</td>
<td>マーケティング論A,B 流通システム論A,B</td>
</tr>
<tr>
<td>肥修推薦科目</td>
<td>経営学関連科目</td>
</tr>
<tr>
<td>学習時間</td>
<td>講義90分 × 15回 + 自学自習</td>
</tr>
</tbody>
</table>

授業の概要
大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言語化すること（理論）と事実合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法的に、統一的に説明できるよう手詰めて組み立てられた知識の体系」です。個々の現象とは現実の出来事ですが、現実（「個々の現象」）は常に変化しているわけではない。理論は現実を説明するためのものですから、現実が変わり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実に当たるどのように理論を作り上げなければならない。本演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。

授業の目的
本演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説（仮の答え）を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろんです、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目（社会で起きていることを理解と対応させるながら考える力）」を養うことを、目的とします。

<table>
<thead>
<tr>
<th>到達目標</th>
<th>学習・教育到達目標（学習・教科書8A8E基準）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. マーケティングがわれわれの生活にどのようにかかわりをもつか理解できるようになること。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できるようになる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できるようになる。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

成績評価の方法と基準
出席状況、報告内容、議論における積極性、グループワークへの取り組みなどの状況に基づいて評価します。

授業計画並びに授業及び学習の方法
・授業計画
積極的に学ぶモードをとるか。
授業計画でグループワークに協力的に参加するか。
指導教員による授業指導を受け入れるつもりがあるか。

・授業計画並びに授業及び学習の方法
前期の演習では、毎回、各担当者にテキストの担当者についてレジュメを作成・報告し、議論をすることを通じて、マーケティングや流通に関する知識を深めます。
後期の演習では、各グループが自由にテーマを選び、研究を行うが、毎回の演習で1つのグループが報告し議論を行い、問題を深めつつ研究を進めます。

教科書・参考書等
プリントを配布します。

オフィスアワー
随時、研究室にて受付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・2020年度個別演習選考基準
演習での取り組み状況（演習への積極性、卒業論文状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的に判断します。
・2020年度個別演習単位認定方法
卒業論文状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断します。
・2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
大枠含む20,000字以上、マーケティングや流通に関わるテーマを選択すること。インタビュー調査あるいはアンケート調査を実施すること。関連する論文や新聞・雑誌などを十分に読むこと。
<table>
<thead>
<tr>
<th>ナンバリングコード</th>
<th>B4BSN-bdB-20-Bg4</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>授業科目名</td>
<td>（時間割コード：323762）</td>
</tr>
<tr>
<td>演習（強）</td>
<td>Seminar</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>必修科目</th>
<th>時間割</th>
<th>前期月4</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>B4BSN</td>
<td>DF・提供部局</td>
<td>cbdE</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>授業時間90分</td>
<td>関連授業科目</td>
<td>経営史、現代企業論</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5h</td>
<td>経営史、現代企業論</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>担当教員名</th>
<th>増田</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学習時間</td>
<td>300h</td>
</tr>
<tr>
<td>+</td>
<td>自学自習</td>
</tr>
<tr>
<td>学習・教育到達目標</td>
<td>(工学部)ABEE基準</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>到達目標</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>学習・教育到達目標</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>経営史に関する基礎的知識、理論が習得できる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>チームワークで研究課題を解決することを学べる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>問題意識に基づく研究活動とそれをまとめる能力が養えられる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

授業の概要
この授業では、企業の歴史、企業は直面した経営上の課題にどのように対応してきたかなど、経営史分野における専門的な知識の習得と研究能力の養成を目的とします。主な内容は以下のとおりです。

- 経営史に関する文献の読解とディスカッション
- グループワーク、研究テーマの設定および研究課題の実証分析
- 各自の問題意識や研究成果に基づく研究発表

授業の目的
この授業の目的は下記のとおりである。

- 企業およびそれを取り巻く経済環境の歴史を理解し、現在の経営現象を歴史的な視点で取り組むこと。
- グループワークを通じて、グループでの問題解決能力を養うこと。
- 問題意識に基づき、先行研究を収集整理し、実証的に分析する手法を習得すること。

授業計画並びに授業及び学習の方法
【選考基準】
面接による選考とする。
選考基準は、以下の三つを重視する。
- 学習意欲
- コミュニケーション力
- 協調性

【授業計画並びに授業及び学習の方法】
第1回 オリエンテーション：第1学期の授業に関する説明と課題設定
第2～9回 経営史に関する文献の読解
第10回 グループワーク：ディスカッション・テーマ設定
第11～14回 グループワーク：テーマに即した先行研究の学習とプレゼンテーション
第15回 まとめ
第16回 オリエンテーション：第2学期の授業に関する説明と課題設定
第17～21回 文献読解・ディスカッション
第22回 各人の卒業論文テーマ設定
第23～26回 各人のテーマに即した先行研究の学習と発表
第27～30回 各人のテーマに即した卒業論文の構想発表とディスカッション
第31回 まとめ

教科書・参考書等
教科書指定なし。
参考書については、受講生が担当教員と相談の上、指定する。

オフィスアワー
火曜日の三時限目。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
【2020年度個別演習選考基準】
演習の成績、卒業論文の計画内容によって判断する。
【2020年度個別演習単位認定方法】
平常点50％（出席、発言、参加姿勢）、卒業論文の中間報告50％で評価する。

【2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方法】
・経営史の分野におけるテーマ設定であること。
・先行研究を体系的に整理し、実証的に論述を展開している。
・研究の意義と限界を明白にしている。

自学自習について
授業内容は個人またはグループで事前に準備する必要がある。
<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>時間割</th>
<th>対象年次及び学科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>必修科目</td>
<td>前期木5</td>
<td>3〜経済学部</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>教科書・参考書等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>教科書は学生との話し合いで決めます。テキストが複数になることもあります。</td>
</tr>
<tr>
<td>参考書や関連資料は必要に応じて随時指示します。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

| オフィスアワー | 木曜 | 3限 |

<table>
<thead>
<tr>
<th>習修上の注意・担当教員からのメッセージ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>3年次演習での学習態度や課題遂行能力を総合的に評価したうえで、卒業作成への意気込みをみて判断する。他の演習出身者の場合は、面接を通して、個別演習で学習目的を確認して選考する。</td>
</tr>
<tr>
<td>ナンバリングコード</td>
</tr>
<tr>
<td>-------------------</td>
</tr>
<tr>
<td>授業科目名</td>
</tr>
<tr>
<td>科目区分</td>
</tr>
<tr>
<td>時間割</td>
</tr>
<tr>
<td>対象年次及び学科</td>
</tr>
<tr>
<td>水準</td>
</tr>
<tr>
<td>DP・提供部局</td>
</tr>
<tr>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
</tr>
<tr>
<td>5g</td>
</tr>
<tr>
<td>担当教員名</td>
</tr>
<tr>
<td>関連授業科目</td>
</tr>
<tr>
<td>調査推奨科目</td>
</tr>
<tr>
<td>学習時間</td>
</tr>
</tbody>
</table>

授業の概要
この授業では、管理会計の理論と実践に関する研究の指導を行う。
前半では、管理会計における基礎的な諸概念や諸技法などについて学ぶ。
後半では、各自が関心をもったトピックに関連する文献をできるだけ多く読んでもらい、次に続く卒業論文作成のための基礎能力を身に付けるよう指導を行う。

授業の目的
管理会計の理論と実践に関する基礎知識を身に付ける（DPの「知識・理解」に対応）とともに、経営意思決定、原価管理、効率評価等の諸問題について管理会計情報を用いて分析できるようになる（DPの「問題解決・課題探求能力」に対応）。

<table>
<thead>
<tr>
<th>到達目標</th>
<th>学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 経営管理プロセスにおける管理会計の役割を説明できる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2. 管理会計情報を用いて代替案間の効率を評価できる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3. 管理会計情報が人や組織の意思決定に及ぼす影響について説明できる。</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

成績評価の方法と基準
出席状況、討論への参加度、チームワーク、報告内容、レポート、ゼミ活動への参加状況などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。

授業計画並びに授業及び学習の方法
・選考基準
  1. 人と組織のマネジメントに興味を持っているかどうか
  2. 管理会計及びコストマネジメントに関する基本知識があるかどうか
  3. 2年次までの単位取得状況と成績（前回時には成績表を必ず持参すること）

・授業計画並びに授業及び学習の方法
  第1回 オリエンテーション
  第2回〜第15回 管理会計テキストの読解・討論
  第16回〜第26回 管理会計トピックに関する文献研究（個人による報告）
  第27回〜第30回 事例研究（グループによる発表・討論）

教科書・参考書等
テキストと参考書は初回の授業で紹介する。

オフィスアワー 月曜日13時〜14時の間、本研究室において随時、質問・相談などに応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
・2020年度個別演習選考基準
  演習の成績による。
・2020年度個別演習単位認定方法
  出席状況、ゼミ活動への参加度、卒業論文への取り組み、報告内容などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。
・2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
  本文20,000字以上で、論理性、新規性を重視して評価する。その他、作成要領については個別演習の中で別途指示する。
授業の概要

高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えを見つける知識・方法の習得を中心に行われるが、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、その答えを自ら生み出す能力の習得を中心に行われるべきであると考えている。そのため本演習では、マーケティングに関する理論的な実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得する。

具体的には、テキストを研読し、マーケティング研究に必要な基礎知識を習得する。さらに、マーケティングの学習においては、自ら経験と実感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であるので、企業見学旅行あるいは異文化体験のための海外旅行を行う。

また、夏休み前に学問のを作る研究テーマによってグループを作り、グループごとに理論的・実証的研究を行なう。研究結果については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行う。さらに、4年生の卒論研究発表およびそれらに関する討議に参加することで、仮説構築やその仮説検証のための調査作成、多変量解析ソフトを用いての仮説検証方法などを習得する。

授業の目的

マーケティングに関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得すること。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
＜2020年度個別演習選考基準＞
個別演習選考基準の以下の4点である。
(1)演習での報告および討論内容
(2)卒業論文のテーマと作成意欲
(3)演習への参加状況および態度
(4)演習でのグループ研究活動の状況と発表内容

＜2020年度個別演習単位認定方法＞
個別演習単位の認定は、出席状況（10%）、レジュメによる報告内容（20%）、卒業論文研究活動および論文
(50%)、討議内容（20%）により総合的に判断する。

＜2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針＞
卒業論文の作成においては、学生らしい視点でマーケティング、流通、消費者行動などにかかわる問題を考察し
なければならない。なお、研究テーマについて理論的および実証的に考察するとともに、以下の条件の中の2つ以
上を満たしていなければならない。
1. 外国語文献を用いる。
2. 質的あるいは量的調査を実施する。
3. 多變量解析ソフト（SPSS）を用いて分析する。

書式及び分量は、以下の要件を満たしていなければならない。
1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサーで書くこと。
2. 表紙、目次、参考文献、頁番号（表紙および目次以外の頁に通し番号で）は必ずつけること。

単位認定は研究内容の独創性（30%）と考察内容（70%）に基づいて行う。
学習時間 講義90分 × 30回 ＋ 自学自習

授業の概要
「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行います。

商品：商品の視点から見た商品の適齢性に関する研究
環境：商品の視点から見た環境型社会に関する研究
地域活性化：商品の視点から見た地域資源の再評価に関する研究

「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学等も予定しています。

授業の目的
「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基本的な考え方を身に付けることを目的とします。

到達目標 学習・教育到達目標
①商品学の視点から見た商品の適齢性について、基本的な考え方を身に付ける。
②商品学の視点から見た環境型社会について、基本的な考え方を身に付ける。
③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身に付ける。

成績評価の方法と基準
出席状況と取り組み姿勢、レポートにより選考します。

授業計画並びに授業及び学習の方法

【選考基準】
研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、後悔性を重視します。

【授業計画および授業方法】
担当する地域を決めて、フィールドワークを行います。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。

担当する地域については、ゼミに配属された後に決定します。

教科書・参考書等
教科書は適宜指示します。
参考書は適宜指示します。

オフィスアワー 金曜日4時限後
経済学部2号館2F古川研究室

履修上の注意・担当教授からのメッセージ
学生教育研究災害危険管理に加入していることが条件です。

【2020年度個別演習選考基準】
研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、後悔性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。

【2020年度個別演習単位認定方法】
出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。

【2020年度卒業論文の作成要項と単位認定方針】
設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。
| 科目区分 | 時間割 | 対象年次及び学科
|----------|---------|-------------------|
| 必修科目 | 前期4  | 3〜経済学
| 水準・分野 | DF・提供部局 | 対象学生・特定プログラムとの対応
| B4BSN | bcdB | 20
| 授業形態 | 学位数 | 4
| 関連授業科目 | 経営組織論A・B, 経営戦略論A・B, 人的資源管理論A・B
| 経営組織論A・B | 人的資源管理論A・B
| 調査データ分析 | 経営組織論A・B, 経営戦略論A・B, 経営統計学 |

学習時間　講義90分×30回＋自学自習

授業の概要
組織のマネジメントに関する研究を行うために必要となる専門知識の学習を行う。実証研究を行うという観点から、チーム単位での調査研究を実施し、他大学との共同ゼミナール報告会に参加することを通じて、当該分野への理解を深める。

授業の目的
卒業論文の作成に向けた準備段階として、専門的な知識と研究遂行や文献調査に必要となる基本的なスキルを習得する（学士課程のDP「知識・理解」に対応）。本年度のゼミでは、組織・マネジメントに関するリーダーシップの学習化、組織文化、組織変革、人材育成や採用の4点から検討する。文献調査や文脈を考察して、チーム単位での共同研究を行い、得られた成果を他大学との合同ゼミナール報告会で報告・討論することで、学習の成果と課題を確認する（学士課程のDP「問題解決・課題探究能力」に対応）。

到達目標
学習・教育到達目標

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習・教育到達目標（学習・教育到達目標）</th>
</tr>
</thead>
</table>

• 経営学の諸理論に基づく専門的な知識を述べることができる。
• チーム単位で組織のマネジメントに関する調査研究（現存研究のレビュー、調査の設計、データの収集・分析、研究報告書の作成）を実施することができる。
• 他者の研究成果に対する建設的な評価を行うことができる。

成績評価の方法と基準
受講態度（出席率および講義への参加度）、宿題、チーム研究の進捗状況により総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

【選考基準】
以下の3点を満たすことができる学生を受け入れる。
1. 本課程で取り扱うテーマや研究方法に関心があること
2. ゼミ活動に積極的に取り組み続けること
3. 他の学生と協調して協力して意欲的に取り組むこと
なお、応募者数の場合は、選考による選考を行う。

【授業計画並びに授業及び学習の方法】
前期：テキストおよび研究論文を範疇し、専門的な知識を習得する。また、インタビュー、アンケートなどの調査方法についての理解を深めていく。夏季前にチーム分け（1チーム4〜5名程度）を行い、チームごとに研究テーマを設定して、実証研究に着手する。
後期：チーム単位での研究の進捗報告と討論を中心に進める。この共同研究の成果は、12月頃に他大学と合同で実施するゼミナール報告会において発表した上で、1月末をめどに報告書をまとめめる。なお、共同研究の実施時には、通常の演習時に多くの準備時間を削ることが必要となるので留意してほしい。1月以降は、個々の卒論テーマについての研究を進める。

＜おおそのスケジュール＞
（前期）
第1回 イントロダクション
第2回〜第10回 文献読解
第11回〜第15回 研究計画の作成・調査法指導
（後期）
第16回 進捗報告会（4年生と合同）
第17回〜第25回 プロジェクト研究（進捗報告）
第26回〜第30回 卒論作成に向けた指導

39
授業の基本的なスタイルは、報告者によるプレゼン→全体での討議→まとめと解説という流れを予定している。演習参加者は、事前に文献や資料を用い、討議に備えて自分なりに論点を整理したメモを作成することが求められる。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、討議をリードすることが求められる。また、全員、授業終了後に授業を振り返っての事後レポートを作成・提出することが求められる。

*演習活動の一環として、学外での調査活動等を伴うため、保険（学研災・学研費あるいは同等のもの）加入をしておくことが授業の条件となる。

<table>
<thead>
<tr>
<th>教科書・参考書等</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>開講時に併用される教科書・論文を示し、受講生と相談の上決定する。</td>
</tr>
<tr>
<td>参考書については、適宜、紹介する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

オフィスアワー

<table>
<thead>
<tr>
<th>課修上の注意・担当教員からのメッセージ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>【2020年度個別演習選考基準】</td>
</tr>
<tr>
<td>・演習への取り組み状況および研究計画を適正選考する。</td>
</tr>
<tr>
<td>他演習からの移籍の場合は、研究計画書および面接により選考する。</td>
</tr>
<tr>
<td>＊アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析、経営統計学のいずれかを課題に、あるいは課題に基づ定であること。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【2020年度個別演習単位認定方法】

| 発表研究の進捗状況およびディスカッションへの寄与に応じて単位認定する。 |

【2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。

| 企業経営に関連した研究テーマが選択されていること |
| 既存研究を踏まえた上で書かれていること |
| 独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること |
| 研究論文作成のための資料にのっとって書かれていること |
| 分量の目安は20,000字以上 |

40
<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>科目</th>
<th>時間割</th>
<th>対象年次及び学科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>必修科目</td>
<td>水準・分野 B4BSN</td>
<td>前期大5</td>
<td>3～経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td>単位数</td>
<td>5g</td>
<td></td>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>20</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>担当教員名</th>
<th>関連授業科目</th>
<th>管理会計および経営学関連の授業科目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>宮脇 秀貴</td>
<td>経済学</td>
<td>会計学・経営学関連の授業科目</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**学習時間** 演習90分×30回＋自学自習＋α

**授業の概要**

このゼミナールの目標は、戦術的ビリオダイゼーション理論に基づいたゼミナール活動を通じて、自分のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要となり、就職活動で求められる力、そして、ゼミナールの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係あり、無関係ではありません。みなさんは、「社会で出て生きていくことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力、覚悟が求められています。

**授業の目的**

社会と大学とゼミナールをフラクタル（自己相似）な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技能・マナーなどを、仲間との相互作用を通じて身に付けること。

**到達目標**

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習・教育到達目標 (学習・教育到達目標)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

**成績評価の方法と基準**

(1) 出席 (原則: 師団回、参加態度、ファイナルプレゼンテーション
(2) 個人のコンピテンシーの向上度

**授業計画並びに授業及び学習の方法**

＜選考について＞
【選考基準】
(1) 上手な自己表現 (研究テーマに関心があり、自己のコンピテンシーを高めたいもの）
(2) Attractiveness (素直さ、誠実さ、ユニークさなど、一緒に時間を過ごしたいと思えるの）
(3) 明るく積極的にゼミ活動に参加できること
(4) これまでの生活態度と成績（参考）
【選考方法】面接（懇親会、対話形式で行います）
※将来の就職活動時の体験学習をあわせてエントリカードを書いて提出してもらいます。

＜アドバイス＞
自分を成長するチャンスは、「今」にしかありません。自分の試みが自分の将来に、そして周りの人たち・社会に影響を与えます。パラドックスは、自分で羽ばたくことから始まります。
※人は周りの環境に影響を受けています。例えば、夏に暑くなると、自然に汗をかいて体温を調整します。さらに、人は想像力で映像を映し出して、手に汗を垂らすことがあります。つまり、人は現実世界だけでなく仮想世界ともフィードバック関係を築きます。したがって、あなたが自分の将来のためにどのように環境を想定・選択するかで、成長度合いは変わるのです。なぜなら、人は自然にその環境とフィードバック関係を築きます。※社会へ出れば、どんな環境でも「やり抜く力（GRIT）」が求められます。この力は、社会に出て働き活躍することから逆算して与えられる宿題や体験などで戦術的負荷を乗り越えながら身に付けていく力です。結局、現実からかけ離れたぬれた環境ではなく、実際に働く時と同じような環境（例えば、制限条件がある中で知恵を絞り、大人と交渉し、様々な人達と協力して物事を実現させていくこと）でしか働くことはできないのです。例えば、ままごとだけではない（しないときはした方がいいが）、実際の料理を作ることはできませんし、一流の料理人になることもできません。

※私たち人間は、「人」の「間」に存在意義を持つ生き物と考えられるので、人との関わりの中で「長期間の信頼関係」を築くことができる人間性を備えることは大切です。礼節・義務・人情を忘れずに。

＜授業計画並びに授業及び学習の方法＞
1. 演習: 戦術的ビリオダイゼーション理論に基づき、年間を通じて下記の項目を学習していきます。
(1) “Show Time” 形式のプレゼンテーション能力・資料作成能力（パソコン基本技術含む）を身に付ける。
(2) グループディスカッション（1グループ4人程度）を通じて議論の展開能力を身に付ける。（基礎）
《専門知識》管理会計、マネジメントコントロールおよび業界分析
《教養知識》金融、世界的なしくみ、モノの原価および価値、意味
(3) カマラマヨー講義との共同プロジェクト・ボランティアに参加し、主要メンバーとして企画・折衝・運営を行、様々な人と協力して物事を進めていく力を身に付ける。
(その他)
・新聞記事を用いたグループディスカッションとデイベート能力を身に付ける（応用）。
・「Business Game（完全版）」を用いて、経営活動の流れと会計情報の関わりを擬似体験する。
・様々な分野の会社に勤める企業人（OBや色々な業界・職種・職位の人）と意見交換し、「働く」ことを見つめ
る機会を持つ。
・就職活動演習（教養理解度クイズ<授業＞&エントリーシートの書き方および面接訓練など<課外＞）
※毎週々の時間に「1週間の出来事」と題し、全員にお話を書いてもらいます。わいわいとした雰囲気の中での、
お互いをよりよく知る機会になっているとともに、語るあるいは表現する練習の場ともなっています。

2. オプションとしても希望があれば、「Work Shop」では簿記を、「ELP(Effective Listening Practice)」では
英語のリスニングを学習することができます。また、「ENJOY」ではウォーキングによる体力作りを行えます。

3. その他（補足）
・年4回、行事（夏祭りコンバ・忘年会・追いコン・秋合宿）があり、毎回OB・OGも来て、親睦を深めるとと
もに、行事の準備や運営など、務事を進める手間などを学ぶ機会も大となっています。
・4年生の夏休み（に限りませんが）には、希望者には1ヶ月ほどの短期海外留学を勧めています。学生の時にし
かからない遠く文化圏での生活を通じて、自分を、そして日本を見つめ直す機会になっていると思います。

教科書・参考書等
随時指定

オフィスアワー
随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
※人生には、受験勉強のような必勝法はありません。楽しく人生を過ごしたいのであれば、それなりの能力やマナ
ーー人柄などの要素が含まれている「人間力」を兼ね備える必要があります。そうした人間力は、一朝一夕には身
に付きません。なぜなら、時間をかけて色々なことに音楽的に取り組み、自分が体験したことが少ないような場
面で操まることでしか、人の心が大きくならないからです。もし、あなたたちへの優しさが「楽」な道を歩ませ
てあげることであればどうでしょうが、2年後に進む現代社会にはそんな道はどこにも存在していないのです。時間
もかかるし、うまくいかないことも多いかもしれません。その分、得られた財産の中身は何もの違え難く、見
える景色や輝けて見える景色が違うことで、より豊かな人生を送ることができるようになると思います。

【2020年度個別演習選考基準】
演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接

【2020年度個別演習単位認定方法】
(1) 出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動
(2) 卒業論文

【2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方法】
☆卒業論文（20,000字以上）
(1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの
(2)学術的な見解があり、かつクリエイティブでオリジナリティに溢れるもの
<table>
<thead>
<tr>
<th>ナンバリングコード</th>
<th>B4BSN-abcE-20-E4x</th>
<th>科目区分</th>
<th>必修科目</th>
<th>時間割</th>
<th>対象年次及び学科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>授業科目名</td>
<td>演習（安井）</td>
<td></td>
<td></td>
<td>前期月4</td>
<td>3〜経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>Seminar</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>B4BSN</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>提供部局</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>abcE</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>Ex</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>単位数</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>担当教員名</td>
<td>安井 敏晃</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>関連授業科目</td>
<td>リスクと保険、保険システム論等</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>調査推奨科目</td>
<td>リスクと保険、保険システム論</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>学習時間</td>
<td>講義90分 × 30回 + 自学自習</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

授業の概要
- 演習においては、保険に関するテキストを輪読することで、保険の基礎知識の収得をめざします。
- 個別演習においては、演習における研究を基礎にして、各自が選定したテーマについて報告・討議を行い、卒業論文を作成する。

個別演習においては、卒業論文の作成が中心となる。毎回、担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討議を行う。

授業の目的
- この演習の目的は、卒業論文に必要となる専門分野の知識および基本的な文章作成能力を身につけることである。

到達目標
- 本演習のテーマに関するレジュメないしレポートを書くことができる。
- 本演習のテーマに関するプレゼンテーションができる。
- 本演習のテーマに関する討議ができる。

成績評価の方法と基準
- 報告、授業への参加状況、レポートを総合して評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

- 選考基準
  - 本演習では、これまでの学業成績を考慮して選考する。
  - ゼミナールでの研究に意欲的に取り組むことができるか。
  - ゼミナールの活動全般に積極的に参加できるか。
  - 協調性があるか。

- 全体の出席及び面接の注意について
  - そのほか、面接時への注意を説明会で説明しますので、必ず確認してください。

- 授業計画並びに授業及び学習の方法
  - 前期はテキストの輪読を行う。毎回決められた報告者が報告し、全員で討議を行う。もちろん報告者はレジュメを作成しておかないわけはならない。なお、ゼミのテーマに関連する簡単な英文を読んでもらう。
  - 後期は輪読と並行して、各自が選定したテーマについても報告してもらう。

- 自学自習について
  - 毎回、何らかの課題があるので、御自身で取り組むこと。

教科書・参考書等
- 最初の講義時に指示する。
- 適宜、指示する。

オフィスアワー
- 現段階では、演習開講日の3時限とする。
- 参加できない演習生がいる場合には、全員参加できる日時に変更する。

課題上の注意・担当教員からのメッセージ
- 2020年度個別演習選考基準
  - 演習における研究活動を考慮して、研究意欲の高い学生を受け入れる。

- 2020年度個別演習単位認定方法
  - 報告、授業への参加状況、レポート、卒業論文を総合して評価する。

- 2020年度卒業論文の作成要領と単位認定方針
卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。

論文展開、説得力、独創性などの観点から総合的に評価する。
<table>
<thead>
<tr>
<th>科目区分</th>
<th>必修科目</th>
<th>時間割</th>
<th>対象年次及び学科</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>水準・分野</td>
<td>DF・提供部局</td>
<td>前期月4</td>
<td>3〜経済学部</td>
</tr>
<tr>
<td>B4BN</td>
<td>cbeE</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>授業形態</td>
<td>単位数</td>
<td></td>
<td>対象学生・特定プログラムとの対応</td>
</tr>
<tr>
<td>5g</td>
<td>4</td>
<td></td>
<td>20</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>担当教員名</th>
<th>関連授業科目</th>
<th>練習推奨科目</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>渡邊 寧一郎</td>
<td>流通システム論A, B</td>
<td>経営学関連科目</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習時間</th>
<th>講義90分×50回＋自学自習</th>
</tr>
</thead>
</table>

授業の概要
本講義では、流通論を基礎として地域が抱えている課題、特に商業に関する面に焦点を当てて、研究を行っていく。例えばショッパー商店街の活性化や、大規模小売業と中小小売業との共存など、地域商業の現状や課題を通じて理解し、課題解決策を見出していく。

授業の目的
個別演習・卒業論文に向けた準備段階として、流通論を基礎とした地域商業によるまちづくり活動について専門的な知識を研究方法や論文執筆に必要となる基本的なスキルを習得する。

到達目標

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習・教育到達目標</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>(工学部)ABEE基準</td>
</tr>
</tbody>
</table>

・流通論に関する応用的な知識を述べることができる。
・地域商業が抱えている課題について分析することができる。
・基本的な研究能力の身につけることができる。

成績評価の方法と基準
発表資料と発表内容40%
ディスカッションへの貢献度40%
演習自体への積極的参加度20%

授業計画並びに授業及び学習の方法

【選考基準】
面接によって先行する。
選考基準は、以下の3つを重視する
①積極性
②協調性
③これまでの大学生活動

【授業計画並びに授業及び学習の方法】

前半は、流通論や地域商業に関する文献を収集し、熟読、理解を深めていく。その作業の中では、個人で行うこともあればグループで行うこともある。両者を組み合わせてより体系的で応用的な知識を獲得していく。

後半は、個人の問題意識にともなって選定したテーマのもとディスカッションを行い、いくつかのグループに分かれてグループワークを行う。そこではフィールドワークや他ゼミとのプレゼン大会なども行う予定である。その集大成として1月末までに1万字程度のレポートを作成することを求める。

教科書・参考書等
必要に応じて、資料を配布する。

オフィスアワー　特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ
2020年度個別演習選考基準
演習での取り組み状況（演習への積極性、講義進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的に判断します。

44